

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第91号

理事長就任のご挨拶

特定非営利活動法人 かながわ子ども教室

小島 啓三郎



本年6月に勝浦さんの後任としてNPO法人かながわ子ども教室の第6代の理事長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

1947年に東京で生まれ、中学・高校と大学1年の7年間は横浜に通いました。1972年に旭硝子（現AGC）に入社し、神奈川県にあった研究所に配属され、1975年からは横浜市民となりました。その後、本社、工場、海外会社（アメリカ、メキシコ、インド）の勤務を経験いたしました。現在にいたるまで本拠地は幸か不幸か横浜のままです。インド在任中にリーマンショックとなり、2009年に退職しました。その後、日本語の起源、日本人の起源などを勉強していましたが、資料不足などで行き詰まりを感じていたころ、先日逝去された横尾さんにお誘いを受け、2013年に入会いたしました。

勝浦さんが理事長として指導されたこの4年間、重点施策とされた教科の拡充は4教室が増え、3教室がリニューアルされました。本年もまもなく「電池」、「真空」の2教室が新設される予定で、パンフレットのホルダーも限界に近づいており、新たな方式を検討する必要が出てきそうです。また、正規授業・理科クラブの拡大も地道にすすんでおります。

さらに、運営の基盤である財政面は東京応化科学技術財団およびダイヤ高齢社会研究財団から継続的に助成金をいただくことができ、安定的な会の運営ができております。

現在の問題は何といたっても会員増強です。私が理事になりましたのは2015年、当時は「理事在任中に75歳に到達するものは理事になれない」という内規があったと聞き及んでおりました。私は現在の会員の中で11番目に若いということになるのですが、5月で75歳になってしまっており、歴代最高齢で就任する理事長ということになってしまいました（私より2ヶ月年長（？）の勝浦さんは就任時最も若い理事長でした）。5月に選任していただいた理事12名のうち、かつての内規を満たす方は3名しかいないという状況です。

現在、会員の平均年齢は78歳を超え、講師の平均年齢も75.6歳となっております。いかに我々の会の高齢者が活力にあふれ元気であるとしても、これは限界に近づいていると言わざるを得ません。一方、70歳までの雇用延長が一般化し、元気な若手（？）高齢者の入会の可能性が減ってきているのも事実です。新たな会員増強策を検討したいと思っておりますが、会員一人一人

があらゆる機会・コネを活用して、入会勧誘を進めていただきたいと思います。

なんとか私が理事長を退任するときには、理事も安心して退任できるような体制にしていきたいと考えております。

もう一つの問題は一向に収束の気配が見えないコロナへの対応です。2020年2月以降子ども教室は大きな影響を受け、2020年度は22回の実施にとどまりました。会を維持していくためにZoomを活用したりリモート教室の開発、少人数のサポータでも実施できるように教室の見直しも行い、さらに子ども教室から「感染させない、感染しない」よう対策を進め、2021年度は63回、本年度は現時点までに50回実施することができています。この間、会員の感染者は残念ながら1名出ましたが、教室起因の感染は0にとどまっています。

また、この間の施策については、内閣府からも高い評価をいただき、このたび令和4年度社会参加活動事例として選定いただきました。ご尽力いただいたダイヤかながわ交流会の森英敏代表そして推薦していただいたダイヤ高齢社会研究財団の関係者の方に感謝申し上げます。

一方、8月にリアルで実施した藤沢の教室の指導員の方からは、「やはりリアルの教室はよいですね。昨年はリモートで実施していただきましたが」という声もいただきました。我々の会の目標も「子どもの健全な育成」とともに「高齢者の自立と生きがいづくり」にあり、できうるかぎり、会員に「きょうよう（今日の用事）」「きょういく（今日行くところ）」を提供していきたいと考えています。ウィズ・コロナの世の中で、きちんとした感染対策を講じながら、無理せず、適正な人数のサポータが参加できるリアルの教室を数多く実施していきたいと思います。よろしく願いいたします。

<かながわ子ども教室> (松下恵造)

2年間「かながわ子ども教室」の予算委員長を務められた小島啓三郎さんの後任として、6月1日から就任しました松下恵造でございます。今回から私が本欄の報告を担当しますので、宜しくお願いいたします。

「かながわ子ども教室」の会員数は、本年4月に諏訪さんが入会されましたので40名となりましたが、これまで戸塚区・鳥が丘小学校での正規授業の継続開催、電気教室、糸電話教室等の開催にご尽力いただいた竹内俊晴さんが7月に退会され、再び39名となりました。竹内さんは9月から油壺の老人ホームにご入居の予定です。

本年度の教室開催計画では、新型コロナウイルスの感染が下期から平常に戻ると想定して、年間114回程度の開催を目途としました。第6波の感染者数は4月から6月にかけて減少・収束傾向を示しましたが、7月から第7波の感染が始まり、9月に入って感染者数がやっとピークを越えたところです。しかし政府の方針により、今年度に入ってから緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が発令されていないため、子ども教室の活動はウィズ・コロナの考え方で、教室開催先と共に感染防止に可能な限りの配慮をして、実施しています。

これまでの教室開催実績は、6月に4回、7月に16回、8月に20回で合計40回です。今後の予定は、9月～12月に44回、1月～3月に12回で合計56回です。現時点では実績・予定

の合計で96回の見込みです。今後少しでも増えることを願っています。

本年度は2年間中止となっていた「ねんりんピック」が地元・神奈川県で開催されます。今回も協賛イベントにてNPO法人きらめきライフ多摩との共催で「おもしろ科学実験教室」を出展します。11月12日(土)～13日(日)に山下公園・おまつり広場(横浜マリントワーの向かい)のテントブースにて開催しますので、多くの親子と会員の皆様の来場を期待しています、

「かながわ子ども教室」の活動は、2015年度に内閣府から「社会参加活動事例」として採用されましたが、今年度7年ぶりに再び「社会参加活動事例」として採用されました。これらの採用は、内閣府の広報・啓発活動として実施されている「エイジレス・ライフ実践事例および社会参加活動事例の募集と紹介」における選考の結果です。今回は「教室の活動先の範囲を広げ、また、コロナ禍になって対面での教室開催がままならぬ状況下でもZoomによるオンライン教室を実施したこと。さらに、ねんりんピック、川崎市青少年フェスティバル等にも参加して活動したこと、が認められての受章となりました。9月16日に2個目の記念盾がいただけます。